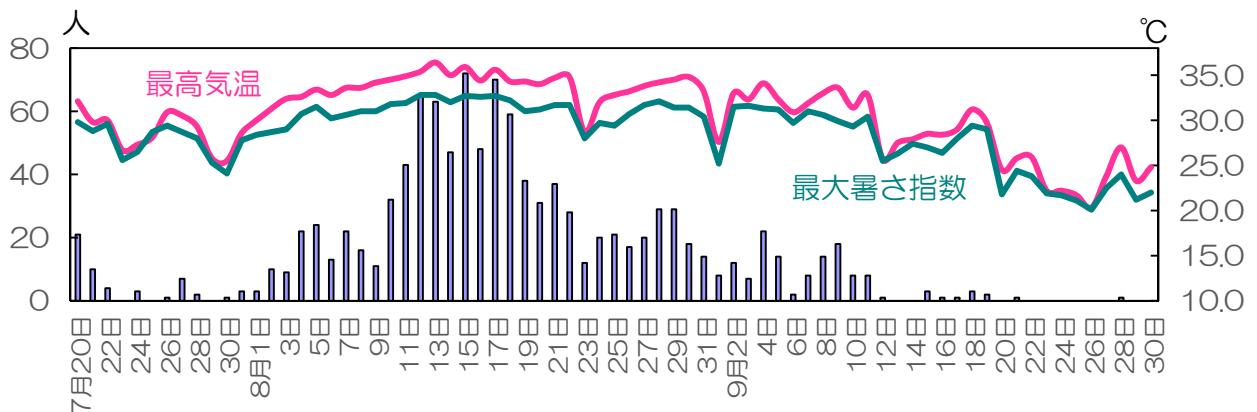


熱中症情報

<搬送数>

令和2年5月1日～9月30日までの搬送数（消防局データを使用）は、計1,284人（5月24人、6月96人、7月87人、8月943人、9月134人）でした。8月の横浜の平均気温は29.1度と10年ぶりに最高気温を記録し、統計開始以降で最も高くなっています。熱中症警戒アラートも相次いで出され、搬送数も急増しました（8月15日（72人）、17日（70人））。その後は減小し、9月12日以降は3人/日以下でした。

新型コロナウイルス感染症の感染が収束しない中、『新しい生活様式』の実践が求められています。感染症予防とともに、湿度が高い時は、汗が蒸発しにくく熱中症になりやすいとされていますので、引き続き熱中症予防（屋外で人と2m以上離れている時はマスクを外す、水分補給、エアコンの使用など）にも心掛けましょう。

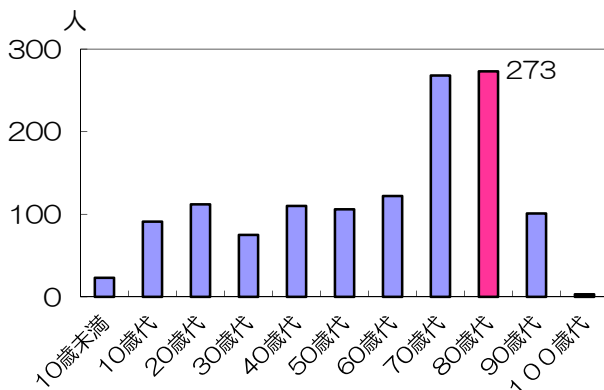


暑さ指数とは? 人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは?](#)」をご覧ください。

以下のグラフのデータは、5月1日からの累積搬送数です。

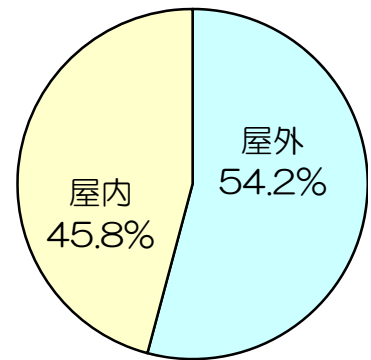
<年齢別>

年齢別では、80歳代が273人と、最も多く、21.3%でした。



<発生場所>

屋外54.2%、屋内45.8%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症52.6%、中等症41.1%、重症4.9%、重篤1.4%でした。

高齢者（65歳以上）の重症の割合が高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

